

和風化ヲ賛スルモノナレバ機器ノ風琴等ノ如キ音調
純正ノモノヲ用テ補益ヲラシムルコト最要ナ
リトス○第三十條 體操 體操ハ各等科ニ於テ之ヲ課
徒手演習器械演習ヲナシムルニ
(以下次號)
○東京府第五十號 郡區役所
客年(十月)第五十一號ヲ以テ賣藥印紙稅則公布相成候
付テ今般當願掛リ官吏ヲ以テ派出賣地ニ就テ令檢査候
條不都合無之様豫テ其(郡區)内賣藥營業人(營業者及ヒ
請賣行賣者)ニ可令告示此旨相違候事
明治十六年四月廿日 東京府知事芳川顯正

北緯三十七度三十分西經八度五十七分(東京本九天守蓋
ヨリ起算)ニ位スル日本稱松島(一名竹島)朝鮮稱蔚島
ノ我ハ安ニ渡航上陸不相成候條此旨諭達候事
明治十六年四月十八日 東京府知事芳川顯正

叙任賞勳

- 四月十日分 檢事 藤井 三郎
- 全月九日分 從六位勳五等 田中 綱常
- 叙正六位 正七位勳六等 角田 秀松
- 叙正七位 從七位 藤 要藏
- 三月廿三分 工部權大技長正六位勳六等 松本莊一郎
- 任農商務權大技長 工部權少書記官正七位 八木下信之
- 任農商務權少技長 工部權少技長正七位 平井晴二郎
- 同 同 山内德二郎

時事新報

永遠無窮人後ニ躍若クラントスルカ
新任ノ朝鮮駐劄米國全權公使「フット」氏ハ桑港ヨリ郵船
「シナ、オフ、メキン」號ニ搭テ去ル十九日橫濱ニ來着
アリ氏ハ去年同國水師提督「シユフエルト」氏ガ支那政府
ノ紹介殊ニ北洋通商大臣李鴻章氏ノ周旋ニ依テ朝鮮政府
ト締結シタル米韓新條約ノ批准書ヲ携帶シ來リタルヨシ
ニテ早速漢城ニ到リ米韓兩國王大統領ノ批准ヲ交換シ自
今大ニ彼此ノ交際ヲ親密近接アラシムルコト盡力セント
スルナリ
先年米國前大統領「グラント」氏ガ世界周遊ノ途次支那日
本ニ立寄リ貴顯諸紳トモ交際シテ十分ニ國情地勢ヲ觀察
スル所アリ米國ニ歸若ノ後ハ東洋ニ對スル政略ニ關シテ
氏ガ意見ヲ披露シ東洋諸國ノ後來大ニ望ミテ屬スルニ足
ル事ト此等諸國ノ盟主トナリテ太平洋ノ東西岸ニ威光ヲ
耀カスベキモノハ米國ニ舍テ他ニアルコトナシ歐洲諸國
觀意東洋政略ヲ講シテ海ニ陸ニ睥睨願スルヲ愛シ多年
ナリト雖トモ憾ムラシハ水陸道遠ク米國ノ一飛シテ東洋
ノ中心ニ到リ得ルノ便ナシ米國ニシテ今ヨリ東洋政略ニ
從事シ從前ノ閉戶主義ニ固着スルコトアルナクシテ米國
ノ未來實ニ知ル可クザラベトノ事ヲ以テ大ニ其ノ國人
ニ勸告シタルヨリ全國ノ輿論ハ靡然トシテ東洋政略ヲ輕
忽視セザルノ傾向ヲ呈シテ當時「グラント」氏ノ書記

トシテ同伴來航セタル紐育ノ一新聞記者ハ此周遊中ニ大
ニ東洋ニ關スルノ知見ヲ増シ殊ニ北京東京日支兩國政府ノ
當路者ニ親接シ其内情ヲモ詳ニシタルヲ以テ東洋駐在ノ
米國外交官タル者ハ此壯年ノ新聞記者ニ優レ者ナシトノ
「フット」氏ハ自家ノ東洋政略論披露ト共ニ内々同
國政府ニ勸告シタリトノハ其頃内外ノ噂ニ隱レナカリ
シガ昨年ニ至リ果シテ此壯年記者ハ外交官ノ印綬ヲ帶ビ
テ我東洋ニ來着シタリ其人ハ誰ゾヤ今ノ北京駐劄米國全
權公使「ロツスル、ヨング」氏即是ナリ又米國政府ハ太平
洋ヲ橫斷シテ海底電線ヲ架設シ東洋トノ通信ヲ便ニセシ
トノ企アリ米國隨一ノ電信工業家ト呼バラル「サイラ
ス、フヒールド」氏ハ一昨年世界周遊ノ際我日本ニ寄リ
此工事ニ關スル日本政府ノ内意ヲモ聞知セシヨシナルカ
不日成功ノ見込アリトノ言ヲ殘シテ歸國シタリト云ヘリ
「フヒールド」氏ノ計畫ニ從ヘバ此電線ヲ架スルニ二路ア
リ一ハ米國「ワシントン」郡ノ西北端ヨリ「アラスカ」カ
ムサツカ」兩半島ヲ經テ日本北海道ニ達シ更ニ日本海ヲ
橫キリテ朝鮮ニ至ルモノ一ハ桑港ヨリ布哇島ニ至リ是ヨ
リ同線ニ分レテ一線ハ西北シテ日本ニ至リ一線ハ西南シ
テ澳大利亞ニ至リ亞細亞澳大利亞兩洲ヲ米國ニ連續スル
モノ是レナリ而シテ前路ノ方ハ費用少クシテ便少ナク後
路ノ方ハ費用多クシテ便多シ然レニ機金募集等ノ都合モア
リ未ダ線路ノ決定ハナキヤニ聞ケリ又米國政府ハ今ヲ距
ル三十年ノ昔水師提督「ペル」氏ヲテ斷然意ヲ決シテ
我日本ヲ開國セシメ永世無窮ノ光榮ヲ博シタルノ例ヲ襲
ヒ明治十三年ノ初ニ當リテ提督「シユフエルト」氏ヲシテ
國書ヲ齎ラシテ朝鮮ニ到ラシメ日本政府ノ紹介ニ依テ米
韓兩國貿易交通ノ好ヲ結バンコト望ミタレト不幸ニシテ
韓廷ノ拒絕スル所トナリ米國政府ノ失望ハ勿論紹介者
タル日本政府ニ至ルマデ大ニ其面目ヲ失シタリキ「シユフ
エルト」提督ハ此一蹶跌ヲ以テ志ヲ挫カズ意ヲ決シテ支
那ニ至リ李鴻章氏ノ周旋ヲ得テ再應其爾ラス所ノ國書ヲ
朝鮮王ニ呈シ本國政府希望ノ次第ヲ通ワタルコト今何
ノ議論モナク韓廷ノ承諾スル所トナリ明治十五年五月仁
川港ニ於テ條約締結調印ノ上提督ハ使命ヲ全フシ面目ヲ
内外ニ施シテ歸國シタルガ其批准ハ新任公使「フット」氏
ガ携帶シテ今日正ニ赴任ノ途ニ在ルナリ
米國政府ガ近來意ヲ東洋政略ニ注クノ深キ前此一二條ノ
事柄ヲ聞見スルモ其大概ヲ推知スベシ不日新公使「フット」
氏ガ任ニ漢城ニ就クノ上ハ說意米韓兩國ノ往來親密
ヲ加ルノ事ニ從ヒ仁川、釜山、元山、楊津等ニ米國商人ノ
移住ヲ獎勵スルハ勿論米韓條約未成ノ最優待國ノ條項ニ
從ヒ自國商人ヲシテ支那商人ト同一ノ權利便益ヲ享ク
ノ自由ニ內地通商ニ從事スルコトヲ得セシムベク或ハ又

輸在來ノ便ヲ與ヘンガタメニ日太平洋飛脚會社ヲ保
護シテ支那及ビ日本トノ便路ヲ開キタルノ例ヲ襲ヒ新
朝鮮ニ定期航路ヲ開クベキヤ勿論ナルベシ此際ニ當リ
我日本商人ノ有様ヲ想像スルニ釜山、元山、仁川開港場數
里ノ遊歩規程内ニ籠居シ船便ナレバ往來モ自由ナラズ
空シク人後ニ瞻若トシテ他ノ金儲ケヲ傍觀シ獨リ愚痴ヲ
訴ルコトナルベシ我輩ハ今ヨリ此有様ヲ想像シテ凄然ニ堪
エズ左レバコソ毎度我時事新聞紙ニ於テ朝鮮ニ關スル
ノ意見ヲ吐露シ當局者ノ注意ヲ促シタルナレ常ニ我時事
新聞紙ノ閣下ノ諸君ハ下ノ關ヨリ對馬ヲ經テ釜山ニ至ル
海底電線ヲ架設シ同時ニ朝鮮政府ト熱議シテ更ニ此線路
ヲ延長シ漢城ニ達セシムルノ必要ヲ肯諾スルナルベシ既
ニ必要ノ線路ナリト決スル以上ハ何ゾ大北電信會社ニ依
賴シテ長崎ヨリ對馬ヲ經テ釜山ニ達スル線路ノ落成ヲ待
ツノ要アラザヤ諸君ハ又馬關、釜山、仁川、元山、天津ノ間
ニ定期郵船ヲ往復ナ開設スルノ必要ヲ肯諾スルナルベシ
既ニ之ヲ必要ナリトスル以上ハ我政府ヲシテ毎年二三十
方圓ノ保護金ヲ出サシムルモ吝ムニ足ラザラベシ我輩ハ
今朝鮮駐劄米國新任公使ノ來着ニ當リ内ニ我日本ノ朝鮮
政略ニ關シテ感慨ニ耐ヘザル所アリ一言又當局者ノ注意
ヲ喚起スル所以ナリ

雜報

○臨幸 聖上ハ來二十五日頃演習巡幸(臨幸)在らせ
られ皇族大臣參議各省勳任官各國公使等々召させられ觀
花の御宴を開かる、由りて宮内外務の官吏ハ此程中より
日々同館へ出張して庭前の掃除等を指揮せし居りしが最
早大略行届たれば其官其筋へ上申せたりと云
○禁苑新茶 茶ハ本邦第一代國産あるニ付先年來 聖上
ハ以深き思召を以て御苑内ニ茶園并製茶所等を設けさせ
給ひ宮内省内匠課の吏員以專ら培養製茶の盡力せまが本
年一層光澤美麗れ芽を生せまを以て一喬芽の身をこの
程已に製造して初味を 聖上及兩皇后宮へ供進しよるよ
と承くる
○御慰勞 去る十八日布哇國ガ歸朝の宮内大輔(一昨日
皇后宮ガ隔地遠航の慰勞として物油菓論を賜ひたり
○西鄉農商務卿 同卿ハ昨日宮城縣ニ歸京後引續け
しが一昨日日方四省ニ付同日後方大藏卿代理を解し
○榎村巡警使 榎村元老院議員官以京府府其他中國領の巡
察使として一昨日登下を出立したり
○泉布館觀花宴 觀花宴の行はるハ東京其みよ關下
と見え去る十八日ハ大藏卿帶同泉布館觀花宴會
とあり同會司官山田少將建野大藏卿等と有御會
街の官吏等百餘名及神坂在留各國領事并官付員等三
十五名を關局内の泉布館ニ遊覽し觀花の宴を設けたり